

北大開示文書研究会について

【北大開示文書研究会とは】

2008年3月から9月にかけて、小川隆吉氏が北海道大学から開示を受けた「北海道大学医学部、児玉作左衛門収集のアイヌ人骨の台帳とそれに関連する文書」など多数の資料を精査し、当時「研究」の名目で道内外でおこなわれたアイヌ墳墓「発掘」の真実を明らかにすることを目的に、2008年8月5日、発足しました。工芸家、団体職員、教員、僧侶、牧師、会社員、ジャーナリストら約10人で構成。

【連絡先】

共同代表	清水裕二 殿平善彦	日本基督教団北海教区 アイヌ民族情報センター 〒077-0032 留萌市宮園町 3-39-8 留萌宮園伝道所内 三浦忠雄方 TEL (FAX) 0164-43-0128 E-mail ororon@jade.plala.or.jp
------	--------------	---

【開示請求に関するこれまでの経緯】

2008年1月17日	小川隆吉氏が北海道大学に「北海道大学医学部、児玉作左衛門収集のアイヌ人骨の台帳とそれに関連する文書」開示請求。
2008年2月29日	北海道大学が「アイヌ人骨台帳」開示決定。
2008年4月11日	小川隆吉氏が「元となる台帳があるはず」などと北海道大学に質問。
2008年4月14日	北海道大学医学研究科より「アイヌ人骨台帳の元となった資料については把握していない」と回答。
2008年4月30日	小川隆吉氏が「開示文書は不完全」などと異議申し立て。「副葬品およびその保管に関する文書一切」開示請求。
2008年5月27日	北海道大学情報公開・個人情報保護審査会開催。
2008年6月11日	北海道大学が人骨・副葬品文書に関し全学調査実施。
2008年6月中旬	北海道大学が種々の文書の存在を確認。
2008年6月17日	北海道大学が副葬品に関する文書6点（うち1点は開示済みの「アイヌ人骨台帳」）を開示決定。
2008年7月29日	北海道大学が副葬品に関する文書19点を開示決定。
2008年9月4日	北海道大学が小川隆吉氏の異議申し立てを認容、アイヌ人骨の台帳とそれに関連する文書として「アイヌ民族人体骨発掘台帳」（写）を含む文書10点を新たに開示。北海道大学が内閣府の情報公開・個人情報保護審査会へ諮問。
2008年11月15-17日	小川隆吉氏が上記審査会に「9月4日開示も不十分」とする意見書提出。

【アイヌ墓地発掘問題とは】

欧米を中心に「人種学」が隆盛を極めた時代背景のもと、1880年代から1960年代にかけて、和人の人類学者・解剖学者らが道内各地および樺太（現在のサハリン）などのアイヌ墳墓を発掘するなどして大勢の遺骨を収集、研究標本として持ち帰り、測定によってアイヌ「人種」の特徴を見出そうとしました。そのさい、遺族の了解なしに発掘（盗掘）がおこなわれたケースや、遺骨だけでなく副葬品（宝石など）が持ち去られたケースも少なくなかったと考えられます。当時のおもな研究者に小金井良精（1858-1944）・帝国大学医科大学教授、清野謙次（1885-1955）・京都帝国大学医学部教授、児玉作左衛門（1895-1970）・北海道大学医学部教授らがいます。

北海道大学医学部では、そのように収集した大量の遺骨を、長年にわたって動物実験施設内などに放置していたことが1980年代に発覚。遺族や北海道ウタリ協会（現・北海道アイヌ協会）の抗議を受けた同医学部が、遺骨の一部（35人分）を遺族に返還したほか、構内に「アイヌ納骨堂」を新設し、残る遺骨（929人分）を安置し直しました。

しかし、アイヌ墳墓からの「発掘」の詳しい実態や、持ち去られた副葬品の行方などが不明のままだったため、今回、小川隆吉氏が改めて、北海道大学に対して関連資料の開示を請求。これまで計35点分の文書資料が開示されました。

このなかには、児玉作左衛門教授が担当していた「医学部解剖学第二講座」によるリスト「アイヌ民族人体骨発掘台帳（写）」（作成年不明）など、初めて公になった資料が含まれていますが、当時の研究報告書などとも合わせて精査したところ、資料ごとに、遺骨人数や副葬品数、現在の保管状況などに多くの矛盾点が見つかりました。

なお、日本も採択に賛成した「先住民族の権利に関する国際連合宣言」（2007）第12条2項は、「国家は、関係する先住民族と連携して公平で透明性のある効果的措置を通じて、儀式用具と遺骨のアクセス（到達もしくは入手し、利用する）および／または返還を可能にするよう努める」と述べています。